



# 日本女医学会誌

公益社団法人日本女医学会  
復刊第248号  
2023年5月1日発行  
題字 吉岡彌生

巻頭言

## 日本女医学会宣言 2022

会長 前田佳子



日本女医学会は2023年4月で121年目を迎えました。私たちはこれからの100年を見据えて、新たな一步を踏み出す瞬間に立っています。どこに向かって進んでいくべきなのか、見極める力が求められています。

男女平等度を表す指標の一つであるジェンダーギャップ指数も年々下がっており、2022年の報告では146カ国中116位と最低レベルです。ジェンダー不平等な国ほど幸福度も低いことが分かっています。女性活躍推進法の制定や、全ての女性が輝く社会づくりを掲げながらも、女性差別撤廃条約の選択議定書の批准の見通しは立っていません。G7サミット開催を目前にして、先進7カ国(G7)のうち日本を除く6カ国と欧州連合(EU)の駐日大使が連名で、性的少数者(LGBTQ)の人権を守る法整備を促す岸田文雄首相宛ての書簡(私信)を取りまとめたことが報道されました。

1970年代初めに先進国入りした日本は、近々先進国ではなくなると言われています。2021年の1人当たり名目GDPは27位でアラブ首長国連邦と同じくらいです。平均年収も20年以上上がっていません。日本は経済的に豊かな国ではなく、なっているということです。人口は2004年をピークに減少しており、高齢者の割合が増加しています。出生率も2016年以降再度下り、2022年度の出生数は1899年以降初めて80万人を割りました。

人口や生産的なことでは日本は既に先進国とは言えなくなりつつありますが、その大きな原因は、ジェンダーギャップを解消する努力や社会に潜む様々な差別を解消する努力を、政権党が全くしていないという点で、この国は世界中の国々から明らかに遅れをとっています。

例えば、外国人であることを理由とした入居拒否や、公衆浴場での入浴拒否、在日朝鮮児童や生徒への嫌がらせ、特

定の人種の外国人に対する警察官の職務質問、そして特定の民族や国籍の人々を排斥するヘイトスピーチなどが起こっており、外国人を不当に差別して尊厳を傷つけています。2021年3月に名古屋出入国在留管理局に収容されていたスリランカ人女性ウィシユマさんが健康上の理由で仮放免や外部病院での治療を求めているのに認められず、病状が悪化し死亡したのは記憶に新しいと思います。

あらゆる面で世界標準から取り残されてきている日本は、すでに先進国とは言えないのかもしれませんが。広い視野を持って、これまでの習慣に囚われることなく、常に新しい「普通」をアップデートしていく必要性を強く感じます。

日本女医学会は女性医師というスペシャリストの集団であり、人間としてジェンダーの視点を大切にして社会に還元できることが沢山あるはずで、2022年12月11日に開催した日本女医学会120周年で宣言した「日本女医学会宣言2022」を実現するために、着実に前進する所存です。

### 日本女医学会宣言 2022

1. 今の世界を変える責任は、今を生きる私たちにあります
1. 日本女医学会は設立時の趣意を受け継ぎ、引き続き社会における女性の地位向上を目指します
1. 公許女性医師1号荻野吟子の目指した、女性の人権を守り、差別のない、全ての人が個性と能力を生かして自由に参加できる社会を実現するために活動します
1. 世界から遅れている日本のジェンダー平等を、異次元のスピードで推進します

### 日本女医学会誌（復刊第248号）もくじ

巻頭言	前田佳子 (1)	にするには？」	芳川た江子 (4)	理事会議事録	(10)
宮城県女医学会市民公開講演会「新型コロナウイルス感染症について、もう一度考えてみよう！」	樋渡奈奈子 (2)	国際女医学会通信②	前田佳子 (5)	第14回軽井沢セミナーのお知らせ	(16)
北から南から⑥	古堅あずさ (3)	日本女医学会講演報告	スポーツ医学のすゝめ	第25回ブロック懇談会のお知らせ	(16)
長寿社会福祉事業講演会「認知症とフレイル～かけがえのない人生をより豊かなもの		各賞のご案内	(7)	寄附者一覧 / 会員動静 / 編集後記	(16)
		第68回定時総会 市民公開セミナー			
		『皮膚疾患の新しい治療』	(9)		

## 宮城県女医会市民公開講演会

新型コロナウイルス感染症について、  
もう一度考えてみよう！

2022年10月30日 仙台市医師会館多目的ホール

宮城支部 樋渡奈奈子



後列左から3人目が岩崎先生

宮城県女医会では、活動の一環として、市民への健康啓発を目的に市民公開講演会を継続して開催しております(令和元年には『心臓外科医 一視同仁』と題した新元号記念・宮城県女医会創設60周年記念の市民公開講演会を開催し、多くの市民が参加されました)。

2022年度は年末から年始にかけての第8波の到来も懸念される中、宮城県女医会前会長で感染症をご専門の岩崎恵美子宮城支部長を講師に、公益社団法人日本女医会からの助成を頂き、共催で「市民公開講演会」を開催いたしました。なお、岩崎先生はご略歴にありますように、2003年(平成15年)にはWHO主催SARS対策専門家会議に、日本代表として出席され、感染症専門家としてご活躍されています。先生を主人公とした

ノンフィクション『検疫官』を読まれた方も多いのではないかと思います。当日は、秋晴れの中、全日本女子駅伝(杜の都駅伝)のコースに面する会場には、役員ならびにスタッフを含め75名と多くの来場者があり、関心の高さが窺われました。ご経験に基づかれたご講演は大変説得力があり、ご講演後の質疑応答(座長は仙台市立病院呼吸器内科科長の田中里江会員)では、フロアからワクチン接種の是非も含めた数多くの質問に、手洗いとワクチン接種の重要性を強調されながら、丁寧に回答され、アンケート結果も大変好評でした。また、最後には参加者から花束贈呈というサプライズがあり、贈呈者との記念撮影等穏やかな中に終了いたしました。今後益々の先生のご活躍をお祈り申し上げます。

## 岩崎恵美子先生のお話

大学卒業後、アメリカでのポランド人ボスとの研究生活で狂犬病が蝙蝠を介する病気であることに驚き、またその後の人生のターニングポイントとなっていることに今回の講演を通して改めて驚いている。また、ボスからの『25歳までは自分自身のために！50歳までは家族のために！そして50歳を過ぎたら社会のために……』の言葉を当時は聞き流していたが、インドのNGOでの咽喉頭外科医としての経験を通して公衆衛生の重要性を痛感し、53歳の時、一念発起して、タイ国マヒドン大学に入学した。熱帯医学の学びを通して、その重要性を再認識した。その後、1997年にJICAからパラグアイの地域保健強化プロジェクトに専門家として派遣され、1998

(平成10)年帰国後は厚生省(現厚生労働省)成田空港検疫所企画調整官に任用され、同年11月仙台検疫所長に就任し、宮城での活動に至っている。任官当時は感染症に関して、これまでの伝染病予防法からいわゆる感染症法への移行期で、検疫官として法の整備にも従事することになった。その後、2000(平成22)年、アフリカ・ウガンダでのエボラ出血熱流行の発生時にはWHOからの要請を受け、現地での診療と調査に従事したことにより、感染症に関する概念が変わった。現地では、予想に反し、病名にも含まれている出血症状は少なく、むしろ下痢、発熱の症状が多かった。『早期発見、隔離、院内感染対策、接触者追跡調査』、これはエボラ出血熱流行時、WHOより提言された感染対策であり、これらは病原性が強い感染

症の流行時対策として現在の新型コロナウイルス感染症対策にも引き継がれている。当時の病棟の床は感染者からの失禁した汚物で汚染されており、感染予防対策として常に心掛けたことは必死に『手洗い』する事であった。重篤な感染症では下痢症状がみられ、今回の新型コロナウイルス感染症では重症の下痢症状はみられなかったが、軟便程度の消化器症状がみられる(東北大学工学研究科による調査では下水と新型コロナウイルス感染者数との関係が認められており、トイレ廻りの清掃や手洗いが重要である)。

これまでも14世紀には東西の交易、15～17世紀にかけての大交易時代と世界におけるグローバル化とともにパンデミックを経験している。特に1970年代以降、新興感染症の概念が生まれた。これまで人間社会に存在しなかつ



た、新たな感染症であり、エボラ出血熱、クリミアコンゴ出血熱、ラッサ熱、ジカウイルス感染症など『動物由来感染症』の概念が生まれた。ほとんどが動物生存領域への人間の侵入であり、近年の感染症は全て動物由来であり、感染症にはそれらを引き起こす病原体がある。病原体が体内に入ることによって感染が成立する。潜伏期に症状の無い人からの感染は低いと考えられ、体力がない人、手洗いをしない人では感染しやすいと考えられる。インドやパラグアイ、ウガンダでの現場から学んだことは地域の衛生状態そして現地の生活習慣の重要性である。これは、日本でも当てはまり、つまり、何らかのダメージを受けている臓器に侵入し、色々な症状を引き起こすの

で、高齢者や生活習慣病のある人では重症化する。故に日頃からの健康管理が重要である。また、新型コロナウイルス感染症ではウイルスはいわゆる、鼻とのどの間の上咽頭の粘膜を経て、血管内に侵入し、血流に乗り、全身を巡るが、喉では扁桃腺炎では経験したことのない『ヒリツク』痛みが特徴である。

コロナウイルスのうち人に感染するものは7種類あり、その中の4種類では子供の風邪をひき起こし、ほとんどの人では6歳頃までに感染している。残る3種がSARS-Cov (20021年～ハクビシン関与?)、MERS (2012年～ヒトコブラクダが宿主とされているが起源はコウモリと考えられている)、2019年 Cov-19 (新型コロナ

ウイルス感染症) である。

感染症の主な感染経路は①飛沫感染 ②接触感染 ③空気感染 ④媒介動物感染が挙げられる。感染対策の基本理念はこの感染経路の遮断が主で、新型コロナウイルス感染症においても最優先されるべき対策である。一方、感染源対策 (隔離) と感染宿主対策 (ワクチン) は対策の従となる。

さて、一般の方の知識はメディアからのいわゆる専門家による情報提供と考えられるが、ある時期から偏った一側面からの情報提供が多いのでは? と疑問に感じ、その後私自身は、メディアではなく、今回のような一般市民の方を対象とした講演会を中心とした活動をしている。

## 第6回

## 北から南から



## 活性化される札幌・北海道

北海道支部  
古堅 あずさ

やっと、北の大地にも春到来です。

札幌では例年、東京より約1ヶ月遅れ

でG.W.頃に桜が開花します。今年も綺麗にソメイヨシノが咲くでしょうか。

札幌は再開発が進み、あと数年で新幹線も乗り入れる札幌駅周辺の景色は少しずつ変化し、それに伴い人の流れも変わってくることに良い意味で期待をしているところです。

昨年秋の新型コロナ水際対策の緩和に伴い、北海道内への観光客も非常に増えています (写真上：札幌大通公園、右下：美瑛町)。特に冬のニセコは、日本人よりも海外からの旅行者が目立ち、この数年で海外資本によるホテル、アクティビティも増え、ますますインバウンドが拡大する状況です。

医療においても、特にこの数年は (買収含め) 医療機関へ海外資本が入ってきている現状があり一種の危機感を感じます。一方、Internet of Medical Things (IoMT)、AIの進歩はめざましく国内企業も充実し学会でもAIに関するセッションは年々増加しています。IoMT、AIの進歩が医療にもたらすメリットを熟知し柔軟に対応していくことが求められる時代に医療を携わっていることを再認識します。

私は、2000年春に東京女子医科大学を卒業し、循環器内科へ入局しました。大学では多くの症例を経験し、素晴らしい指

導者のもと重症心不全に対する非薬物治療および心臓超音波検査を主とする画像診断を用いた臨床研究に携わることができたのも大きな財産であり現在の礎になっています。

地元・札幌で勤務する病院では、心臓弁膜症、心筋症における心臓超音波検査を用いた術前および術中評価を担い、心臓血管外科医と手術内容strategyについて議論するなど「ハートチーム」の要として注力しています。同時に、開業医である父のクリニックにも勤務し、まさに地域に根ざした医療を肌で感じ、父の理念を理解し改めて尊敬するとともに、これまでの経験をもとに、IoTを有効に利用しながら地域の方々へ還元していこうと思いを新たにしています。

札幌に戻ってから10年。秋には第13回日本心臓弁膜症学会学術集会 (外科会長：道井洋吏 内科会長：古堅あずさ) を札幌で開催します。高齢化とともに増え続ける弁膜症疾患について熱く議論する学会です。

これまで多くの先輩、後輩、同僚たちに出会い、かけがえないご縁に恵まれてきました。今回、日本女医会にご縁をいただきましたことも感謝しております。

ぜひ皆様、北海道へお越しください。



## 長寿社会福祉事業講演会

認知症とフレイル  
～かけがえのない人生をより豊かなものにするには？

2023年1月29日オンライン開催

長寿社会福祉委員長 芳川た江子

日本は超高齢社会に突入し、認知症の発症は85歳以上では4人に1人とされています。私達も他人事ではないので、今回は芳川浩男先生に「認知症とフレイル」について御講演いただきました。以下に要旨を紹介します。

また、日本女医会のホームページに講演のYouTube Live動画をアップしていますので、当日ご視聴できなかった方、もう一度聞きたい方など、ご視聴くださると幸いです。

## 〈講演要旨〉

## ～認知症とフレイル～かけがえのない人生をより豊かなものにするには？～

公益財団法人 日本生命済生会 日本生命病院 特任副院長 芳川浩男

日本は超高齢社会（65歳以上の人口が全体の27.7%）に突入し、少子化も進んでいる。認知症の発症は年齢に相関して上昇し、85歳以上では4人に1人とされている（女性の平均寿命は87.8歳）。2013年推計によると、認知症患者は462万人で、2025年には700万人に達すると言われているが、世界的には、認知症の有病率は最近減少しており、教育の高さ、経済的裕福、脳卒中や心筋梗塞の減少が原因として挙げられている。近年の日本には地域包括ケアシステムが機能し、医療・介護・生活支援が提供され、2019年の政府新大綱として、今後の認知症施策は「共生と予防」を柱に取り組みとされている。そのためには成年後見人制度の活用も必要である、

さて、認知症は慢性疾患であり、記憶障害のみ示す軽度認知障害（MCI）から発症すると言われているが、その原因としてアルツハイマー病、レビー小体病、脳血管障害以外に、前頭側頭葉変性症、うつ病、高齢者タウオパチーなど様々である。代表的疾患であるアルツハイマー型認知症はMCI発症前の15年間、アミロイドβ蛋白が蓄積し、神経細胞障害を引き

起こすとされ、その前段階での疾患修飾薬による治療が期待されている。現在使用可能な認知症治療薬の評価は低い。Lancetの総説（2017年）によると、以下に示す9因子の制御で認知症の35%は予防可能とされている。具体的には小児期の教育期間の短さ（8%）、中年期の難聴（9%）、高血圧（2%）、肥満（1%）、更年期の喫煙（5%）、抑うつ（4%）、運動不足（3%）、社会的孤立（2%）、糖尿病（1%）、さらに追加（2020年）されたリスク3因子として、過剰な飲酒、頭部外傷、空気汚染がある。

一方、高齢者の虚弱を示す用語として「フレイル」がある。体重減少、握力の低下、歩行速度の低下、訳もなく疲れたような感じがする、身体の

活動低下の5項目の中で3つ以上が該当すると「フレイル」とされ、認知機能低下につながるが示されている。社会的交流や「80歳まで20本の歯を維持する」努力も認知機能維持には重要である。

近年、日本の食生活は近代型、副食多食に変化し、「魚におひたし、煮物」という昔からの日本食が忘れられているが、この伝統型食事は見直されるべきであり、さらに地中海式食事を取り入れることで認知症予防につながる。フィンランドでのFINGER研究で示されたように、認知症は多因子疾患であり、食事・運動・認知トレーニング・血管リスクの管理など、すべてに配慮することが重要である。

LIVE 日本女医会  
長寿社会福祉事業  
オンラインセミナー

令和5年1月29日  
2022年度長寿社会福祉事業  
オンラインセミナー

認知症とフレイル

かけがえのない人生をより豊かなものにするには？

公益財団法人 日本生命済生会  
日本生命病院 特任副院長  
脳機能センター長 兼 脳神経内科主任部長  
芳川 浩男



## 国際女医会通信

The Letter from Medical Women's International Association (MWIA)



29

## CSW67 は久しぶりの対面開催でした

National coordinator (NC) 前田佳子

2018年に国際女医会通信 No.14 と No.15 でも紹介しましたが、CSW (Commission on the Status of Women: 国連女性の地位委員会) は1946年に発足し、事務局はUN Women、委員会はニューヨークの国連本部で2週間にわたって開催されます。政治・経済・社会・教育分野などにおける女性の地位向上に関して国連経済社会理事会 (ECOSOC) に勧告・報告・提案などを行うための委員会です。

2023年のCSW67は3月6日～17日の日程で、3年ぶりの対面開催となりました。

- 優先テーマ 「ジェンダー平等とあらゆる世代の女性たち（自らの能力発揮、選択決定、目標達成の機会実現）のエンパワーメントと、デジタル時代における技術的な新基軸と変化および教育について」
- 検証テーマ 「CSW62の合意結論である農山村のあらゆる年代の女性たちのエンパワーメントについて」

## 3月6日

開会式はアントニオ・グテーレス国際連合事務総長の「女性の権利に関する進歩が消えつつある中、男女平等はまだ300年以上先のこと」という衝撃的な言葉で幕を開けました。CSWが国連の年間カレンダーの中で最も重要なイベントの1つであるにもかかわらず、「何十年もかけて勝ち取った進歩が目の前で消えつつある」と述べました。彼はアフガニスタンにおいて危機と紛争は女性と女兒に最悪の影響を与えており、事実上公的生活から抹殺されている事を指摘しました。ジェンダー平等を実現するために取るべき3つのステップを1. 特にグローバル・サウスにおける教育と雇用へのアクセス、2. 科学技術への参加とリーダーシップの向上、3. 女性と女兒にとって安全なデジタル環境の構築、として締めくくりました。

CSWに参加するためには国連の協議的地位が認められているNGOに加盟する必要があります。日本女医会はその資格を持つ国際婦人年連絡会 (IWYLG) に加盟しており、今回私は代表として参加しました。CSWの期間中、国連に自由に入出入りするためには入館証が必要なので、日本から事前申請をして現地で発行

してもらいます。今回は久しぶりの現地開催だったこともあり、手続きに超長蛇の列が出来、入館証を手に入れるまでに何と3時間半以上もかかってしまいました。



## 3月7日 19:00 (EST) / 3月8日 9:00 (JST)

IWYLGが中心となって、国連日本代表部、日本女性監視機構 (Japan Women's Watch: JAWW)、国連NGO国内女性委員会と共催でサイドイベント「イノベーションとテクノロジーを変革し、女性と女兒のエンパワーメントを実現する」を開催しました。東京とNYの2カ所からのオンライン開催は初めての試みで、担当団体として開会の挨拶もしなければならず、その後は配信トラブルが起こりませんようにと、ずーっとドキドキしながらの90分でした。140人が視聴し、成功裏に終了しました。

## 3月8日夜

国連日本代表部のブリーフィングがありました。開会日に小倉内閣府特命担当大臣 (少子化対策、男女共同参画) はビデオでステイトメントを述べたとの報告がありました。この日は国際女性デーであり、午前中は国連でイベントが開催されたために一般討論は午後のみであったこと、合意結論の協議のためのゼロドラフトがweb上に公開されている事などが紹介されました。CSW67の合意結論に関してはまた別の機会に報告いたします。

## 3月10日

国際女医会 (MWIA) としても3月10日オンラインパラレルイベント「分野をこえた最高と最低のテクノロジー」が開催されました。パネリストとしてMWIA会長のエレノア・ヌワディノビとMWIA事務局長のマリアム・ジャシが登壇しました。ディスカッションのテーマは次の3つでした。①女性と女兒の地位向上においてテクノロジーが果たす役割に関する学術的な視点 ②技術へのアクセス格差についての多分野にわたる分析 ③女性のテクノロジーへのアクセスを促進する、実行可能なパートナーシップとコラボレーションに関する情報。

さて、2024年に開催するCSW68の優先テーマは「貧困への対応、ジェンダーの視点に立った制度・資金調達強化により、ジェンダーの平等とすべての女性と女兒のエンパワーメントの達成を加速させる」に決まりました。



2023年1月14日 講演会

## スポーツ医学のすゝめ 日本女医会講演報告



北海道女性医師の会では平成19年より様々なキャリアセミナーを開催してきました。本年度の講演会はスポーツ医学についてとりあげ、Webも交えたハイブリッド形式で3年ぶりに現地開催を行いました。詳細報告は北海道女性医師の会のHPをご参照下さい。

(文責：北海道支部 長井 桂)

前列左2人めから、大城和恵先生、寺本瑞絵先生、寺本篤史先生

### 1. 寺本篤史先生 (札幌医科大学 整形外科)

大学3年時に、プロ野球の桑田真澄選手がジョブ医師による肘の手術(トミー・ジョン手術)を受けたことで、医師がスポーツに関わるということに興味をもたれた。

これまでの現場でのご活動としては、コンサドーレ札幌のチームドクターから、全日本スキー連盟での活動、2020冬季ユースオリンピック・東京オリンピック・北京オリンピックの同行など。各大会での先生方のアイデアによる選手のサポート、実際のアクシデントの対応といったお話のほか、コロナ禍以前のユースオリンピックではインフルエンザ流行防止がカギであったこと、スケートボード競技での現在のヘルメット着用ルールの難しさなどのお話を伺った。

### 2. 寺本瑞絵先生 (NTT東日本札幌病院 産婦人科)

女性医学の一領域として女性アスリート支援があり、競技人生だけでなくアスリートの一生涯を考えたサポートを行っている。女性アスリートの3主徴としては、①摂食障害の有無を問わないエネルギー不足、②視床下部性無月経、③骨粗鬆症が挙げられる。また、性周期の時期によって筋肉の強さや関節の柔らかさは変わるので、競技によってコンディションの良い時期は異なる。TOKYO2020では女性アスリート科で診療し、ドーピングに気を付けた処方や、自国に戻ってからも継続した治療を行えるのかといったことも意識された。最後に、アスリートが何を望んでいるかを把握するとともに、エビデンスに基づいたブレない信念と、アスリートの立場に立ちナラティブな部分も大切にされた支援が重要であるというメッセージで講演を締めくくられた。

### 3. 大城和恵先生 (北海道大野記念病院 循環器内科・山岳登山外来)

大城先生は山岳医療を、エベレストに最初に登頂し山岳医療にプライドを持つイギリスで勉強された。また、世界中で数多くの山に登り、教科書では学べない身体の変化を実際に経験して、人間の身体の限界や可能性に触れている。山岳医療の特異性の一例として、-20℃といった環境で点滴をゆっくり行くとすぐに冷めてしまうため、湯たんぽで温めながら静注程度のスピードで流すという工夫をなさっている。三浦雄一郎さんのアコンカグア登山に同行した時には、心停止を起こしても亡くならないで帰ることを目標とし、現地のガイドさんを含めた綿密なシミュレーションを行った。日本の山岳遭難で死亡した人を調べると、救助隊が要救助者に接触した時の生存率は3.5%であった。特に北海道では低体温症が死因の最多という特徴もある。山岳医療のデータを集めてそれに基づいた医療を行う必要性も忘れてはならない。

## 第44回 日本女医会学術研究助成のご案内

日本女医会では医学の発展・向上に寄与する研究を行っている会員の方々の学術研究に対し、助成事業を行ってまいりました。平成24年4月に公益社団法人に移行いたしましたので、第33回より日本国内在住の女性医師を対象として優れた研究に対して、助成を行うこととなりました。つきましては、希望者は下記応募要領にしたがって当会宛てにご申請されますようお願いいたします。また、平成28年度からは、山崎倫子氏のご遺志により寄附された基金1,000万円から、若手医師の研究助成を行う「山崎倫子賞」を設立いたしました。学術研究助成応募者の中から、優秀と判断された1名に山崎倫子賞を授与いたしております。

### 記

- 1. 助成の趣旨** 後進の研究助成を図り、医学分野の発展、向上に寄与する事を目的とする。
- 2. 助成金額** 1件30万円まで、採択件数は3件以内。うち優秀と判断された1件には山崎倫子賞として、50万円を助成する。
- 3. 申し込み手続き**
  - 1) 応募資格**
    - ①申請締切時において満45歳未満の日本国内在住の女性医師。
    - ②同一研究課題により他機関の助成を申請している、または助成を受けている場合は、当研究助成の申請を認めない。
    - ③助成を受けた後に上記に抵触することが判明した場合には、助成金の返還を求められることがある。
  - 2) 助成期間** 原則1年間。同一人が重ねて申請をする場合は5年以上の間隔をおくこと。
  - 3) 応募方法** 日本女医会ホームページ (<http://jmwa.or.jp/> 学術研究助成) より所定の用紙をダウンロードして作成し、電子メールに添付して応募。宛先：(公社) 日本女医会 office@jmwa.or.jp
  - 4) 申込期限** 2023年12月25日必着。
  - 5) 選考及び発表方法** 選考委員会において選考の上、日本女医会理事会で決定し、申請者宛てに通知する。
  - 6) 助成金の贈呈** 2024年5月19日開催の第69回日本女医会定時総会（東京都内にて開催予定）の席上。被授与者または代理人が必ず出席すること（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。受賞のスピーチを日本女医会HPにて公表される会誌 (<http://jmwa.or.jp/> 日本女医会誌) に掲載することを承諾する。
  - 7) 被授与者の本会に対する報告**
    - ①2025年9月5日までに収支報告書を提出し、研究経過報告として「学術研究助成受賞者の軌跡」を会誌に寄稿することを承諾する。
    - ②被授与者は、本助成金授与後3年以内に本助成金を受けた研究であることを明記した論文の別刷10部を提出し、日本女医会誌等に掲載することを承諾する。
  - 8) 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局

## 第9回 公益社団法人 日本女医会 学術研究助成 溝口昌子賞

平成25年に逝去された故溝口昌子先生の御遺志により寄附された基金から、女性医師のキャリアアップと永年勤続を目的として設立されました。

### 記

- 1. 助成の趣旨** 女性医師のキャリアアップと永年勤続を目的とする。
- 2. 助成金額** 1件30万円とし、原則毎年1名に授与する。
- 3. 応募資格** 申請時に満55歳未満で、大学病院または総合病院等に臨床の常勤医として役職に就いて勤務しており、臨床、研究、教育、社会活動等を行っている日本国内在住の女性医師（教授は除く）。
- 4. 提出書類** 1) 所定の様式の履歴書 2) 研究に関する自著を含む共著論文 2編 3) 公益社団法人日本女医会会員（選考委員を除く）2名の推薦状 4) 誓約書（申請内容に偽りのない旨を明記） 5) 業績目録 以上の書類を日本女医会事務局まで簡易書留で郵送する。
- 5. 申込期限** 2023年12月25日（当日消印有効）
- 6. 表 彰** 2024年5月19日開催の第69回日本女医会定時総会（東京都内にて開催予定）の席上。被授与者または代理人が必ず出席すること（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。受賞のスピーチを日本女医会HPにて公表される会誌 (<http://jmwa.or.jp/> 日本女医会誌) に掲載することを承諾する。
- 7. 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局



## 日本女医会 荻野吟子賞 候補者募集のご案内

公益社団法人日本女医会は、女性として初めて公に医師の資格を与えられた荻野吟子の偉業を称え、その名を永久に伝え、女性の地位向上を図ることを目的として、「日本女医会荻野吟子賞」を制定しています。

本賞の候補者を募集致しますので、募集要項にしたがってご申請下さいますようお願い申し上げます。

### 募集要項

- 対象** 独自の活躍をもって、女性の地位向上や市井の医療に著しい貢献をした女性医師（原則として1名）に与える。但し、同賞を受賞したことのある者、及び日本女医会吉岡彌生賞を受賞したことのある者は応募することはできない。
- 候補者の推薦** 日本女医会員による推薦が必要である。
- 提出書類** 所定の様式の履歴書、推薦状を日本女医会事務局まで簡易書留で郵送する。
- 申込期限** 2023年12月25日（当日消印有効）
- 選考及び発表** 選考委員会において選考の上、申請者宛に通知する。
- 表彰** 2024年5月19日開催の第69回日本女医会定時総会（東京都内にて開催予定）において行い、賞状、記念プレートおよび副賞を授与する。副賞は5万円とする。被授与者が必ず出席すること（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。受賞のスピーチを日本女医会 HP にて公表される会誌（<http://jmwa.or.jp/> 日本女医会誌）に掲載することを承諾する。
- 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局

## 日本女医会 吉岡彌生賞 候補者募集のご案内

公益社団法人日本女医会は、日本における女性医師の育成の礎を築いた吉岡彌生の偉業を称え、その名を永久に伝えるとともに、女性医師の医学、または社会への貢献を図ることを目的として「日本女医会吉岡彌生賞」を制定しています。

本賞の候補者を募集していますので、募集要項にしたがってご応募下さい。

### 募集要項

- 対象** 公益社団法人日本女医会の最高の賞として、次のいずれかに該当する女性医師各1名に授与する。1) 医学に貢献した女性医師 2) 社会に貢献した女性医師。但し、同賞を受賞したことのある者、及び日本女医会荻野吟子賞を受賞したことのある者は応募することはできない。
- 候補者の推薦** 日本女医会員2名以上の推薦が必要である。
- 応募方法** 所定の様式の履歴書及び推薦状と、下記の内容の業績目録を添えて、日本女医会事務局まで簡易書留にて郵送する。  
**業績目録**
  - 「医学に貢献した女性医師」に応募の方
    - 査読のある欧文の医学雑誌に掲載された論文のうち筆頭著者3編以上を含む5編の全文
    - 上記以外の査読のある国内外の医学雑誌に掲載された代表的な論文のうち筆頭著者7編以上を含む10編の論文名、著者名と抄録
  - 「社会に貢献した女性医師」に応募の方
    - 国内外での医療・保健・福祉活動、女性医師支援および女性医師の地位向上等における業績報告書1) 2) に共通の業績
  - 国内外の学会等での特別講演、招聘講演の演題名、講演年月日、学会名、開催地等
  - 国内外での活動および国際貢献に対する受賞歴：賞の名称と受賞理由、授与者名及び団体名、受賞年月日
- 申込期限** 2023年12月25日（当日消印有効）
- 選考及び発表** 選考委員会において選考の上、申請者宛に通知する。
- 表彰** 2024年5月19日開催の第69回日本女医会定時総会（東京都内にて開催予定）において行い、賞状、楯および副賞20万円を授与する。被授与者が必ず出席すること（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。受賞のスピーチを日本女医会 HP にて公表される会誌（<http://jmwa.or.jp/> 日本女医会誌）に掲載することを承諾する。
- 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局

## 第6回 山本纈子賞のご案内

平成29年に逝去された山本纈子元会長のご遺志により寄附された基金を元に設立された山本纈子賞の募集を本年度より開始致します。この賞は、若手女性医師の海外においてグローバルに活躍する女性医師をサポートする助成制度です。希望者は下記の要項にしたがってご応募下さい。

### 募集要項

- 対象** 申請時に満45歳未満で、大学病院または総合病院などに常勤医として勤務しており、1年以内に海外留学または海外学会報告などの学術活動を行っている、または1年以内に行う予定の日本国に在住している女性医師（教授は除く）。臨床・基礎医学の別は問わない。
- 助成金額** 原則 一人あたり10万円
- 申し込み手続き**
  - 下記の書類を揃えて公益社団法人日本女医会事務局まで郵送
    - ①申請書と履歴書（<http://www.jmwa.or.jp/yamamoto/yamamoto.php>より所定の用紙をダウンロードして作成して下さい）
    - ②学会の抄録
    - ③研究に関する自著を含む共著論文2編
    - ④日本女医会会員（選考委員を除く）2名の推薦状
    - ⑤提出書類に関する誓約書（申請内容に偽りのない旨を明記）
    - ⑥業績目録
  - ②申込期限 2023年12月25日
- 授与** 2024年5月19日開催の第69回定時総会（東京都内にて開催予定）の席上。被授与者または代理人が必ず出席すること（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。受賞のスピーチを日本女医会HPにて公表される会誌（<http://jmwa.or.jp/>日本女医会誌）に掲載することを承諾する。
- 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局

## 公益社団法人日本女医会 第68回定時総会 市民公開セミナー

### 『皮膚疾患の新しい治療』

乾癬、アトピー性皮膚炎、ニキビ、多汗症などの一般的な皮膚の病気における最新治療について、病気の原因を交えてご紹介いただきます。ぜひご参加ください。

<日時> **2023年5月21日（日）13:30～14:45**

<会場> **ライトキューブ宇都宮 2階 大会議室 202**

（栃木県宇都宮市宮みらい1-20）

<講師> **小宮根真弓先生**

自治医科大学 医学部皮膚科学講座 教授 キャリア支援センター長

<参加方法>

どなたでもご自由に参加いただけます。オンライン参加ご希望の方は、以下のzoomウェビナーURLへアクセスいただき、お名前・メールアドレスの入力をお願いいたします。ご登録いただきましたメールアドレスに、当日の視聴URLが送信されますので、ご視聴ください。

<https://bit.ly/41bABai>（ウェビナーID：917 2748 7601）

下のQRコードからもお申し込みいただけます。

詳しくは同封のチラシをご覧ください。



※ QRコードからの場合

スマートフォンのQRコードリーダーから、左のQRコードを読み取ってお申し込みください。

2023年  
**5/21**  
（日）

公益社団法人日本女医会  
第68回定時総会  
**市民公開セミナー** 参加  
無料

どなたでもご自由に参加いただけます

2023年 **5月21日**（日）  
13:30～14:45（開場13:00）  
会場：ライトキューブ宇都宮2階  
大会議室202

司会：友井皮フ科クリニック 院長 塚田篤子 先生  
座長：馬場医院 副院長 馬場安紀子 先生

◆開会のご挨拶  
日本女医会 会長  
昭和大学医学部泌尿器科学講座 講師 前田佳子 先生

◆特別講演『皮膚疾患の新しい治療』  
講師：自治医科大学 医学部皮膚科学講座 教授  
キャリア支援センター長 小宮根真弓 先生

【内容】  
乾癬、アトピー性皮膚炎、ニキビ、多汗症などの一般的な皮膚の  
病気における最新治療について、病気の原因を交えて紹介します。

【参加方法】  
現地参加：会場へ直接ご来場ください。  
オンライン参加：詳細は裏面をご覧ください。

お問合せ  
公益社団法人日本女医会  
〒112-0004 東京都港区赤坂1-3-19  
ビルドールF4F5号室  
【電話番号】03-6447-0820  
【E-mail】office@jmwa.or.jp  
主催：公益社団法人日本女医会  
共催：マルホ株式会社

公益社団法人日本女医会  
(((理事会議事録)))

## 2022年度第4回理事会議事録

## 1. 日時・場所

1. 日時 2022年9月17日(土)  
午後3時30分～午後5時30分
2. 場所 ZOOMによるオンライン会議
3. 出欠席者

## 1) 出席者

理事	前田佳子	藤谷宏子
	青木正美	磯貝晶子
	牛山元美	大谷智子
	木村友美	塚田篤子
	野村明子	樋渡奈奈子
	宮坂晴子	望月善子
	芳川た江子	

監事 大関ひろ美 村上京子

## 2) 欠席者 なし

## 2. 継続審議事項

1. 創立120周年記念誌（日本女医会史追補版）について（継続）
  - ・前田会長より、再見積りについて、昨年9月の見積り2種（1200部、60ページ。モノクロまたは4色）に比べ、72ページ、8ページのみ4色のため、中間くらいの価格に収まったとの報告があった。現状、ページ数が増える見込みのため、さらに高くなる可能性があること、前田会長と編集委員の馬場先生が数回オンライン会議を開き、年表原稿の整理と入稿作業は完了し、現在レイアウトを調整中であること、新たに追加したコンテンツである支部は16支部集まったので締め切る旨などが述べられた。
  - ・望月理事より1200部の配布内訳についての質問があり、全国医科大学の男女共同参画部署に配布することが提案された。
2. 第68回定時総会について（継続）
  - ・芳川理事より、宇都宮市で開催予定の総会は現地開催を目指すことと、栃木県の先生に講演会演者を依頼中であることが報告された。
  - ・塚田理事より、準備委員会の活動報告があり、エクスカッションの計画や講演会詳細を次回以降の理事会で発表する旨が報告された。
3. 2022年度ブロック懇談会について（継続）
  - ・芳川理事より、候補地を募集・検討中であること、開催時期は来年年明け以降になること、zoom開催を考えていることなどが報告された。

## 3. 審議事項

1. 120周年記念誌表紙の投票結果報告と再投票について（承認）
  - ・表紙に掲載する「葉っぱ切り絵」アーティストのリトさんの作品について、理事による選挙の結果は同票だったため、第一希望の最も多い作品に決定すること、使用料は前田会長が寄附することが承認された。
2. 中村哲先生映画への寄付について（承認）
  - ・青木副会長より、会誌246号執筆のために、理事間で閲覧させていただいた中村哲氏のドキュメンタリー動画提供のお礼として、映画配給会社の「日本電波ニュース社」に5万円の寄附が承認された。
3. 2022年7月・8月会計報告承認（承認）
  - ・野村理事より、6月の会計報告について訂正報告があった後、2022年7月・8月の説明があり、会計報告が承認された。
  - ・大谷理事より、事業別収支明細参考資料の用途について、外部選考委員謝金は別建ての記載をする旨、学術部としての提案があり、承認された。
4. 2022年度第3回理事会議事録承認（承認）
  - ・2022年度第3回理事会議事録が承認された。
5. 新入会員について（承認）
  - 2022年7月15日から2022年9月15日の新入会員1名が承認された。
6. その他
  - 1) 「性犯罪における刑法改正を求めます」への賛同について（継続）
    - ・前田会長より、オンライン署名サイトのchange.orgで行われている「法務大臣へ、性犯罪における刑法改正を求めます。」キャンペーンと発信者3団体についての説明が行われ、日本女医会も賛同したいという提案があった。改正問題がまだよく分かっていない、3団体について調べる時間がほしいという理事の声が複数あり、次回の審議事項となった。
  - 2) こども家庭庁への要求提案について（承認）
    - ・藤谷副会長より、こども家庭庁に対して日本女医会からも意見を提出する提案があり、意見案をまとめることが承認された。
7. 120周年寄附について（承認）
  - ・塚田理事より、創立120周年寄附金振込用紙を246号以降の会誌に入れていく計画と、9月末にリニューアルする日本女医会HPからも寄附できるようにしてもらいたい旨の提案があり、承認された。

## 4. 報告事項

1. 各部、NC報告
  - 1) 庶務部報告
    - ・芳川理事より、会員動静について報告があった。
    - ・吉岡彌生賞、荻野吟子賞の応募状況について報告があり、9/17現在で応募はまだない旨報告があった。
  - 2) 広報部報告
    - ・樋渡理事より、9月16日に行われた広報部会についての説明があり、理事会で審議されていなかった120周年記念講演会の演者について再検討となり、本日の理事会で決まり次第、校了し印刷する予定であることが報告された。11月9日原稿締切、1月25日発刊予定の会誌247号について、内容の提案が行われた。
    - ・藤谷副会長より、120周年記念特集号について、100周年のように通常の会誌とは別に発行するかどうか、110周年のように通常号に掲載するか、広報部で検討する旨が報告された。
  - 3) 学術部報告
    - ・大谷理事より、会誌246号に2021年度を受賞者全員の挨拶が掲載されたことが報告され、学術研究助成受賞者の成果掲載は再来年の1月までであることが確認された。また今年度の各賞選考について外部選考委員の規程素案を作り、次回理事会で審議する予定であることが報告された。
  - 4) IT部報告
    - ・磯貝理事より、各委員会に向けて、講演会の決定事項をIT部に速やかに連絡するよう要請があった。
2. 各委員会報告
  - 1) 男女共同参画事業委員会
    - ・木村理事より、10月開催のキャリア・シンポジウムについて収録日、配信日、アーカイブ公開、補助金申請結果、見積もりなどの説明が行われた。
  - 2) 長寿社会福祉委員会
    - ・芳川理事より、時間変更のお知らせとアーカイブ公開など追加説明が行われた。
  - 3) 女性の健康支援事業委員会
    - ・樋渡理事より、9月14日に行われた女性の健康支援事業委員会会議についての説明が行われた。講演会の時期や講師案が提案され、理事の間で様々な意見が交わされた。1月の会誌に案内を掲載するために検討事項とし、次回の理事会での承認を目指すこととなった。
  - 4) 小児救急事業委員会
    - ・藤谷副会長よりリニューアル後のHPに原稿を掲載する予定との報告があった。
  - 5) HP制作委員会
    - ・青木副会長より、新しいHPへの移行は



公益社団法人日本女医会  
(((理事会議事録)))  
2022年度第5回理事会議事録

## 1. 日時・場所

1. 日時 2022年11月19日(土)  
午後3時30分～午後5時30分
2. 場所 ZOOMによるオンライン会議
3. 欠出席者

## 1) 出席者

理事	前田佳子	藤谷宏子	
	青木正美	磯貝晶子	
	牛山元美	大谷智子	
	木村友美	塚田篤子	
	樋渡奈奈子	宮坂晴子	
	望月善子	芳川た江子	

監事	大関ひろ美	村上京子	
----	-------	------	--

## 2) 欠席者

理事	野村明子
----	------

## 2. 継続審議事項

1. 創立120周年記念誌(日本女医会史追補版)について (継続)
  - ・前田会長より、進捗状況の報告があり、式典時に配布できるよう現在、鋭意制作中である旨が述べられた。
2. 創立120周年記念事業について (継続)
  - ・前田会長より、最新のスケジュール案についての説明があり、50年会員と日本女医会会員代表による挨拶の内定者が発表され、役員の集合時間や役割分担、当日のサポート増員についてなどの説明が行われた。
3. 第68回定時総会について (継続)
  - ・芳川理事より、公開講演会の講師が決定し、前日の5月20日(土)にはエクスカッションと懇親会がある旨の報告があった。
  - ・塚田理事より、宇都宮市の名所を巡る半日ツアーや、会場であるライトキューブ宇都宮、自治医科大学皮膚科学教室の小宮根真弓教授が演者を務める公開講演会等の説明があった。対面のみかハイブリッドで開催するか、今後IT部を交えて検討することとなった。
4. 2022年度ブロック懇談会について (継続)
  - ・芳川理事より、創立百二十周年式典後、早急に執行部と相談し、次回の理事会で発表するとの報告があった。
5. 「性犯罪における刑法改正を求めます」への賛同について (承認)
  - ・前田会長より、前回の提案時からの進展や現在の試案が抱える問題点などの説明が行われ、採決が行われた結果、日本女

以上

ほぼ済んでおり、9月中には移行が完了し、現在は書籍や会費、寄附などをクレジットカード決済するテストを行っている旨の報告があった。

- ・前田会長より、新HPの年間利用料の支払方法がカード決済のみだったため、会長の個人カードで立て替えていることや、決済方法がカードのみの業者が増加してきているため、日本女医会も法人カードの取得が必要なことから、次回理事会で審議することとなった。

## 3. 対外的団体活動

## 1) 国際婦人年連絡会 7/20 報告、分野別委員会

- ・前田会長より、各理事が所属を希望する分野別委員会リストを国際婦人年連絡会に提出した旨と7月に開催された委員会についての報告があった。来年3月に開催されるCSW67の優先テーマが「ジェンダー平等とすべての女性・少女のエンパワーメント達成のためのデジタル時代における革新、技術変革及び教育」に決定し、サイドイベントを共催する連絡会はテーマに沿ったイベントを企画中であること、埼玉の国立女性教育会館(NWEC)が毎年開催している男女共同参画推進フォーラムに連絡会がパネル展示を行う予定であることが報告された。

## 2) 国連NGO国内女性委員会 第77回国連総会代表顧問歓送会 9/20 予告

- ・前田会長より、9月20日にハイブリッドで開催される予定の第77回国連総会政府代表顧問歓送会に参加する旨の報告があった。

## 4. その他

## 1) 事務職員退職と入職について

- ・前田会長より、経理担当の事務員の退職発表と、後任の紹介が行われた。またこれを機に、大関監事の協力により就業規則や雇用契約書を整備した旨の報告があった。

## 2) エリザベス女王逝去に伴う追悼文のHP掲載について

- ・前田会長より、ホームページにエリザベス女王逝去に伴う追悼文を掲載した旨報告があった。

## 5. その他、継続審議事項

## 1. 創立120周年記念事業について

(継続)

- ・大谷理事より、120周年記念式典・講演会・祝賀会に関する事案が会長、副会長により理事会の議事を踏らずに2022年9/25発行の会誌246号に原稿が掲載されていたことが広報部樋渡理事の指摘で発覚し、その件についての臨時理事会も執り行われず承認されていない準備委員

会報告が9/7に前田会長から発出されたことと一部の執行部のみで進められた記念祝賀会の来賓や講演会演者選定についても審議すべきであることを大谷・望月理事が指摘し、再考すべきことを提示した。

- ・青木副会長より、事務員が交代し、会長が代わる中、東京の執行部だけで急遽考案したことに対する弁明があった。

- ・村上監事より、準備委員会設立時にその権限が決まっていなかった、9月の会報に講演会の開催掲載する前に、準備委員会が開かれていなかったなどの問題が指摘された。

- ・大谷理事より、来賓として複数政党の議員を呼び、すべての党から呼ばない理由についての質問があり、前田会長より、日本女医会を知ってもらう、要望を上げる窓口になってもらうなどの理由が述べられた。

- ・村上監事より、公益社団法人のイベントに政治家を呼ぶことについて、内閣府への確認が求められ、前田会長が後日確認することとなった。

- ・講演会の演者案について、準備委員会に参加していない理事からの異論に対して、準備委員による選出理由の説明があった。

- ・前田会長より、11月の理事会で決めるのでは遅い、記念事業準備委員会の委員は執行部、IT部、会計部、庶務部で構成したが、新たに推薦してもらい、急ぎ臨時委員会を招集したい旨が述べられ、理事全員が委員会に参加することとなり、会誌への講演会の詳細記載については保留となった。

- ・チラシに掲載予定の会費徴収方法についても要検討ということになり、会誌1月号に振込用紙を同封するという当初の案は保留となった。

- ・村上監事より、会費が費用を大幅に上回る場合は監査の点で問題になるという指摘があり、大谷理事より、より正確な予算案の提示が求められ、次回臨時委員会でも提出することになった。

医会として賛同することが決定した。

### 3. 審議事項

#### 1. 2023年度事業計画案について

(継続)

・藤谷副会長より、2023年度の事業計画案について、各部、各委員会と確認が行われた。学術部の公開講演会は年2回程度とし、小児救急事業の公開講演会はHPでの子育て支援情報の提供に変えるなどの案が発表された。修正事業計画案に基づいて予算案を作成し、次回1月の理事会に提出する予定である。

#### 2. 女性の健康支援事業講演会について (承認)

・樋渡理事より、これまでの議論の総括が行われ、プレコンセプションケアをテーマに3月5日または12日に行い、1月の会誌に間に合うようメール等で進めていきたい旨が述べられた。望月理事より、プレコンセプションケアについての詳しい説明が行われ、女性のライフステージ全般に関わる話題であることが確認された。藤谷副会長からは女医会にふさわしい講師が望ましいこと、前田会長からは別の講師案があること、大谷理事からは講師候補を変えるよりも、プレコンセプションケアのほうが聞きたい会員が多いのではないかという意見が出され、女性の健康支援事業委員会案が承認された。

#### 3. 法人クレジットカード作成について (承認)

・前田会長より、クレジットカード決済のみの取引が増加している現状と、候補としている法人クレジットカードについての説明があり、作成することが承認された。

#### 4. 選考委員会及び外部選考委員規程案について (承認)

・大谷理事より、選考委員規定と外部選考委員規定について、各々2案が提案され、共に第2案が承認された。また、外部選考委員に任期を設けるべきかが諮られ、村上監事から公益社団法人として偏りが無いほうが良いという意見が出された。再任は妨げないが連続で2期までという案で承認された。

#### 5. 規定の改正について (承認)

・前田会長より、入会方法にHPを加える、入会の承認を理事会から執行部に改める、外部委員という表記を外部選考委員に変更する、賞の条件について現状の条件に改めるなどの改正案が提案され、承認された。

#### 6. 北海道女医会からの公開講演会助成申請について (承認)

・令和5年1月14日開催予定の公開講演

会に対して、5万円の助成が承認された。

#### 7. 2022年9月・10月会計報告承認及び事務職員退職と入職について (継続)

・前回理事会で報告した経理担当事務員が急病のため退職し、後任の紹介が行われた。このため今回の会計報告は延期し、次回の理事会でまとめて審議することとなった。

#### 8. 2022年度第4回理事会議事録承認 (継続)

・樋渡理事より、広報部報告の訂正案が出され、大谷理事より、継続審議事項の「創立120周年記念事業について」の訂正案と準備委員会の議事録についての質問が出され、次回理事会で審議することとなった。

#### 9. 新入会員について

・2022年9月9日から2022年11月18日の新入会員5名が承認された。

#### 10. その他 (継続)

・前田会長より、広報部で審議中の創立120周年記念特集号について、案と費用の説明が行われた。5月号の発送時に送る、新たな案を含めて見積もりを取り直すことが決まり、IT部と広報部が共同であったよう要請された。

### 4. 報告事項

#### 1. 各部、NC報告

##### 1) 庶務部報告

・会員動静  
芳川理事から会員動静について報告があった。  
・吉岡彌生賞、荻野吟子賞の応募状況について  
芳川理事から応募状況についての報告が行われた。

##### 2) 広報部報告

・会誌247号について  
樋渡理事より、広報部が各支部長に執筆を依頼していた年頭所感を今後は会長と広報部連名で依頼する、役員にも依頼するなどの変更案が発表された。

##### 3) 学術部報告

・学術研究助成について  
大谷理事より、現在2名の応募があり、条件に満たない候補者からの応募を避けるためHPにQ&Aを掲示する、HPの「新しい治療とトピックス」の現在の見出しを適切なものに改めるべきなどの指摘があった(現在「医療情報」となっている)。

##### 4) IT部報告

・磯貝理事より、10月に行われた第15回キャリア・シンポジウムの音声トラブルについてのお詫びと、今回の反省を踏まえた対応策が報告された。

#### 5) ナショナルコーディネータ報告

・前田会長より、9月末に提出した‘Activities of MWIA and its Regions’に定期的に掲載する日本女医会活動報告の内容、会長が委員長となったアワード委員会の活動について、国際女医会のNGO再登録状況の報告が行われた。新副会長に交代してからは、西太平洋地域のオンライン会議がまだ開催されていないことが報告された。

#### 2. 各委員会報告

##### 1) 男女共同参画事業委員会

・木村理事より、第15回キャリア・シンポジウムのアンケート結果についての説明があった。11月30日に予定しているアーカイブ配信では資料がHPからダウンロードできる予定である。  
・男女共同参画という名称について  
木村理事より、多様性やダイバーシティという言葉を使うことが多くなってきている昨今、男女共同参画事業委員会という名称が適切か、委員会の中で議論になっている旨が報告された。前田会長より、2012年に女性医師支援委員会から名称が変更になったことや、時代に即した名称が望ましく、タイミングを見て検討したい旨が述べられた。

##### 2) 長寿社会福祉委員会

・芳川理事より、令和5年1月開催予定の2022年度長寿社会福祉事業オンラインセミナーについての説明と見積もりについての報告が行われた。

##### 3) 小児救急事業委員会

・藤谷副会長より、公開講演会の開催から、HPに子育て支援情報を掲載していくことに事業計画を変更し、初回のテーマは子どもの発熱の予定であることが報告された。

##### 4) HP制作委員会

・前田会長より、会費や寄附のクレジットカード決済利用の呼びかけがあった。  
・大関監事より、削除すべき不要なデータの指摘があった。  
・樋渡理事より、ネット会員についての質問があり、前田会長から目的の説明が行われた。  
・青木副会長より、会員の遺贈を受け付ける、支部との交流を図るなど将来の計画が述べられた。

#### 3. 対外的団体活動

##### 1) 国際婦人年連絡会 9/21 10/19 11/16 報告

・前田会長より、この間3回開催された常任委員会報告のほか、第67回CSWのサイドイベントの準備状況、OPCEDAWアクションの現状、内閣府男女共同参画局長との面談・内閣府男女共同参画との意見交換、NWECフォロー

ム 2022 への参加状況、今後行われるセミナーの予定についての報告が行われた。

#### 2) 国連 NGO 国内女性委員会 第 77 回国連総会代表顧問歓送会 9/20 報告

・前田会長より、イレーネ賀集代表顧問の歓送会についての報告があった。

#### 4. その他

##### 1) 2022.11.14 セーフ・アフォーション院内集会 / 行政交渉「国際基準で使える経口中絶薬を！」賛同団体登録

・前田会長より、賛同団体として登録した旨の報告があった。

##### 2) HP 掲載事項報告

・前田会長より、2つの提言を掲載したとの報告があった。

1) 森喜朗氏の差別発言に対して

2) マイナンバーカードと健康保険証の一体化に強く反対します

##### 3) 栃木支部講演会・談話会

・前田会長、塚田理事より、10月2日に出席した栃木支部総会の講演会・談話会の報告があった。

##### 4) 東京都葛飾支部 山口いづみ先生お通夜

・前田会長より、11月5日に行われた山口いづみ先生のお通夜に参列した報告が行われた。今回、役員への連絡が不十分であった指摘があり、今後は徹底するよう努めることが確認された。

##### 5) FM FUJI 出演

・前田会長より12月4日、11日に放送予定のラジオ出演で、創立百二十周年を迎える日本女医会の宣伝を行ったことが報告された。

以上

## 公益社団法人日本女医会

# (((理事会議事録)))

### 2022 年度第 6 回理事会議事録

#### 1. 日時・場所

1. 日時 2023年1月15日(日)  
午後2時00分～午後4時00分
2. 場所 ZOOMによるオンライン会議
3. 出欠席者
  - 1) 出席者
 

理事	前田佳子	青木正美
	磯貝晶子	牛山元美
	大谷智子	木村友美
	塚田篤子	野村明子
	樋渡奈奈子	宮坂晴子
	望月善子	芳川た江子
  - 2) 欠席者 藤谷宏子

#### 2. 継続審議事項

1. 創立 120 周年記念誌（日本女医会史追補版）について (承認)
  - ・前田会長より冒頭、創立百二十周年記念式典のお礼と山本継子元会長の七回忌法要参列の報告が行われた。創立 120 周年記念誌は創立記念式典参加者に配布し、お祝いをくださった非会員の方々にはお礼状と共に送付、8 ページ増と表紙のデザイン料が加わったため、昨年 7 月の見積もりに比べ 1 部あたり 290 円増となった、誤植のため訂正シールを会誌送付時に同封することなどが報告された。また第 4 回理事会（9/17）で望月理事より全国医科大学の男女共同参画部署へ配布する提案があり、次年度の助成金案内送付時に同梱送付することが承認された。
2. 創立 120 周年記念事業について (継続)
  - ・前田会長より創立百二十周年記念式典の出席人数と収支についての発表があった。35 名から計 261 万円の寄附があり、寄附のお願いを継続していく旨の報告があった。
3. 第 68 回定時総会について (継続)
  - ・芳川理事より、庶務部部会ではハイブリッド開催が望ましいという意見が出され、今後は庶務部と IT 部が共同で進めていくとの報告があった。
  - ・塚田理事より、栃木支部による下見報告があり、エクスカッション・総会・講演会・懇親会の出欠については今回、旅行代理店は入れないため事務局が集計する、宿泊予約は各自が行うが、ホテルリストは 3 月の総会案内に同封する旨の報告があった。また、マルホ製薬から講演会後援の提案があり、承認された。

・青木副会長より、ハイブリッド開催検討にあたり、IT 部と庶務部、栃木支部の間で準備委員会を作り、地元業者を探す必要があるという意見が出され、前田会長から見積もりの要望があった。

・磯貝理事より、総会は議決数を厳密に管理しなければならず、未経験のハイブリッド開催には不安があるという指摘があり、青木副会長より、塚田理事を中心に地元業者選定や LINE での打ち合わせについて、早急に取り掛かりたい旨が述べられた。

#### 4. 2022 年度・2023 年度ブロック懇談会について (継続)

・芳川理事より、創立百二十周年事業があったため、本年度の開催は見送り、次年度の開催として、4～6月の間に佐賀支部で zoom 開催の予定であることが報告された。11月に青森支部が開催する学生参加の会でも検討中とのことであった。

#### 5. 2023 年度事業計画案について (承認)

・前田会長より、事業計画案についての確認が行われた。

・樋渡理事より、女性の健康支援事業委員会では厚生労働省が毎年 3 月初旬に女性の健康支援事業を行っているため、女性の健康支援事業委員会の講演会時期も 3 月初旬予定にしたいという意見が出され、修正することになった。

#### 6. 2022 年 9 月・10 月会計報告承認 (承認)

・塚田理事より、説明があり、2022 年の 9 月・10 月の会計報告が承認された。

#### 7. 2022 年度第 4 回理事会議事録承認 (承認)

・前回理事会で修正要望が出された「広報部報告」と継続審議事項「創立 120 周年記念事業について」の修正案に対して、樋渡理事と大谷理事から再修正の指摘があり、承認された。

#### 8. 創立 120 周年記念特集号について (継続)

・樋渡理事より、新たな案を含む再見積もりが提示された。また、記念特集号の編集について、広報部が担当するのか、新たに記念特集号委員会を立ち上げるのかについて審議要望があった。

・青木副会長より、広報部、IT 部、庶務部が携わることが提案され、案の決定は広報部と IT 部が検討し、内容については広報部、IT 部、庶務部が共同で当ることが承認された。

#### 3. 審議事項

##### 1. 2023 年度予算案について (承認)

・塚田理事より、各部と事業予算案の確認が行われ承認された。大谷理事の提案に



- より、外部選考委員謝金を各賞で按分することが決まった。新設したIT部に関しては、15万円の予算が計上された。
2. 2023年度理事会開催日日程について (承認)
- ・2023年度理事会の開催日程が承認された。
3. 2022年11月・12月会計報告承認 (承認)
- ・塚田理事より説明があり、2022年11月、及び12月の会計報告が承認された。
4. 2022年度第5回理事会議事録承認 (承認)
- ・宮坂理事より説明があり、2022年度第5回理事会議事録が承認された。
5. 新入会員について (承認)
- ・2022年11月18日から2023年1月13日の新入会員2名が承認された。
6. その他
- 1) 「ウィメンズマーチ東京2023」開催の賛同団体の件 (承認)
    - ・前田会長から説明があり、日本女医会も賛同団体になることが承認された。
  - 2) 「軍拡より生活！未来の子供たちに平和を！」の賛同団体の件 (承認)
    - ・前田会長から説明があり、日本女医会も賛同団体になることが承認された。
  - 3) 男女共同参画事業の名称変更について (承認)
    - ・木村理事から説明があり、幅広く多様な人々に寄与する名称が望ましいため、「男女共同参画」から「ダイバーシティ推進」に名称変更する提案がなされ、承認された。
  - 4) 講演会の日程について (承認)
    - ・磯貝理事より、すべてのオンライン講演会のサポートを行っているIT部から、講演日程についての問題点が指摘された。技術革新が著しい分野であるため、現在は特定の通信業者に依頼が集中しており、日曜午後の開催が難しく、リハーサルを含めてIT部の負担が増してきているため、極力平日に開催するよう要請があった。
4. 報告事項
1. 各部、NC報告
    - 1) 庶務部報告
      - ・芳川理事より会員動静について報告があった。
      - ・芳川理事より今年度の吉岡彌生賞、荻野吟子賞の応募状況について説明があった。
        - 吉岡彌生賞 1名
        - 荻野吟子賞 1名
    - 2) 広報部報告
      - ・樋渡理事より、会誌247号の校正状況に
  - 2) 学術部報告
    - ・大谷理事より、学術研究助成関連の応募状況について報告があった。
      - 学術研究助成 9件
      - 溝口昌子賞 2件
      - 山本纈子賞 1件
  - 3) IT部報告
    - ・磯貝理事より、創立百二十周年記念式典・講演会当日、YouTubeモバイルライブ配信ができず、パソコンから配信した件についての報告があり、現在は可能になったため今後は問題ない旨が報告された。YouTube Liveで配信される今月末開催予定の長寿社会福祉事業オンラインセミナーについての説明があった。
  - 5) ナショナルコーディネータ報告 (前田会長)
    - ・前田会長より、第1回国際女医会グローバル会議が1月26日に開催予定であること、11月から12月の日本からの報告として、創立百二十周年を中心に登録した旨の報告があった。
2. 各委員会報告
- 1) 男女共同参画事業委員会
    - ・木村理事より、2023年度から名称変更を行う予定であること、また、2023年度も10月にキャリア・シンポジウムを開催し、次回理事会で講師を発表予定であることが述べられた。
  - 2) 長寿社会福祉委員会
    - ・芳川理事より、今月の公開講演会を視聴するよう口コミなどをお願いする呼びかけがあった。
  - 3) 小児救急事業委員会 (藤谷副会長)
    - ・藤谷副会長より、小児救急冊子の継続的な広報と、HPに子育て支援情報を掲載する予定である旨の伝言があった。
  - 5) HP制作委員会
    - ・前田会長より、下記の掲載報告があった。
      - ・「脱たばこ」に画期的な法案
      - ・「性犯罪における刑法改正を求めます」活動に日本女医会も賛同いたします
      - ・軍拡より生活！医療のために税金を使ってください
      - ・山崎トヨ先生温故知新インタビューの掲載
3. 対外的団体活動
- 1) 国際婦人年連絡会
    - ・前田会長より
      - ・12/5に第1回が開催され、現在第5回まで終わっているセミナーの概要
      - ・12/21に開催された常任委員会では、3月にNYで開催予定のCSW67開催が本年度もオンラインになった経緯
  - ・12/17の婦団連第49回総会で挨拶を行ったなどの報告があった。

2) 国連NGO国内女性委員会

    - ・前田会長より、12/12開催の第77回国連総会報告会で、イレーネ賀集代表顧問が国連総会に出席したとの説明があった。

4. その他

    - 1) 北海道女性医師の会主催「これからのキャリアを語る医師と学生の会2023」出席報告について
      - ・前田会長より、出席の報告があった。

以上

**公益社団法人日本女医会**  
**(( (理事会議事録) ))**  
**2022年2月臨時理事会議事録**

1. 日時・方法

    1. 日時 2022年2月28日(火)  
午後9時10分～9時55分
    2. zoom 配信
    3. 出席者
 

理事	前田佳子	青木正美
	藤谷宏子	磯貝晶子
	木村友美	塚田篤子
	樋渡奈奈子	宮坂晴子
	芳川た江子	
監事	大関ひろ美	

2. 議題

    1. トランスジェンダー女性の入会について
      - ・前田会長より、トランスジェンダー女性医師2名の方から入会申込があり、面談した結果、執行部としては入会を許可する所存である旨の報告があった。定款上、入会資格に問題はなく、規程では執行部が入会を承認し、理事会で報告すればよいことになっているが、今回が初のケースであるため、役員に説明をするべく、臨時理事会を開催することになり、お二人の状況と、日本の性別変更要件についての説明が行われた。女性医師として入会を許可する理由として、お二人とも心の性は女性であること、日本女医会には差別のない環境を作ることを目指していること、お二人とも女性医師として勤務している実績があることなどを挙げ、役員に意見を募った。今後の対応については、日本の性別変更要件が厳しく、一概にルール化することは難しいため、当面は一人ひとり丁寧に話しを聞いて判断することとなった。本件の承認について、他役員からは特に異論が出なかった。

以上

あなたの、いちばん近くにある安心。



QOLとは、クオリティ・オブ・ライフという意味。  
クオールの、社名の由来です。

クオールは、一人ひとりの患者さまに信頼される調剤薬局として、  
あらゆる地域社会の健康で豊かな生活に貢献します。

これからも私たちは、安心・快適にご利用いただける薬局をめざし続けます。

くらしを支える、良質な地域医療をすぐそばで。

**QOL** クオール薬局 グループ  
Quality Of Life

## 第14回軽井沢セミナーのお知らせ

2020年より休会を余儀なくされ淋しい思いでおりましたが、4年ぶりに再開の運びとなりました。ぜひご一緒に秋の軽井沢を楽しみましょう。休会中に亡くなられた石原幸子先生の思い出を胸に…。

**日時** 2023年**10月21日**(土) 午後6時～

**会場** 軽井沢プリンスホテル にれの木ホール  
長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢 1016  
電話 0267-42-1111

**講演会** 「あなたの知らない泌尿器の世界」

**講師** 昭和大学泌尿器科講師 前田佳子先生

**親睦会** 同会場にて 午後7時30分～9時

**会費** 講演会参加費 4,000円 懇親会食事 16,000円



**第14回日本女医会軽井沢セミナーのお知らせ**

清和の秋、皆様にはご迷惑のこととお詫言申し上げます。  
さて、本日は4年ぶりに当会開催のご案内ができることを誠に嬉しく存じます。2020年より休会を余儀なくされ淋しい思いでおりましたが、ようやく再開の運びとなりました。ぜひご一緒に秋の軽井沢を楽しみましょう。休会中に亡くなられた石原幸子先生の思い出を胸に…。なおお早めホテルのご予約をお願いします。今回は軽井沢プリンスホテルで開催します。

— 記 —

**日時** 2023年10月21日(土) 午後6時～

○ **会場** 軽井沢プリンスホテル 「にれの木ホール」  
〒389-0195 長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢 1016 Tel 0267-42-1111

○ **講演会** 演題:「あなたの知らない泌尿器の世界」  
講師: 昭和大学泌尿器科講師 前田佳子先生

○ **懇親会** 同会場にて 午後7時30分～9時

○ **会費** 講演会参加費 4,000円 懇親会食事 16,000円

**10月22日(日)の懇親会は・・・**  
(ゴルフ) 軽井沢72ゴルフ 時間未定

軽井沢セミナー担当: 会長・鹿田儀子 副会長: 小間麻子  
会計: 磯貝晶子 長野支部: 河野直子(支部長)、上條順子  
庶務: 馬場安紀子

ご希望の項目に○印をつけてお申込み下さい。締切: 2023年9月22日(金) 厳守

**お申し込み先** : 日本女医会事務局 FAX 03-6447-0821 Email office@jmwa.or.jp

① **費** (朝食付き1泊2日・入会者の非会)

軽井沢プリンスホテルウェストツイン

( ) 1名利用 44,782円

( ) 2名利用 24,091円 (同室者名 )

( ) **宿泊不参**

② **懇親会** 参加 不参加      ③ **懇親会** 参加 不参加

④ **ゴルフ** 参加 不参加

ご署名 \_\_\_\_\_ 支部 \_\_\_\_\_

ご住所 \_\_\_\_\_

ご連絡先 電話 \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

郵の有りまでお問い合わせいただけますが、本誌を郵送されないようご遠慮ください。なお郵物は、日本女医会メンバーリストからも郵送物としてあります。リストにご登録をご希望の方は、事務局までご連絡下さい。

ご参加、ご宿泊の申し込みは同封のチラシにて  
お願い致します  
(軽井沢セミナー同好会会長 鹿田儀子)

## 第25回ブロック懇談会のお知らせ

**日時** 2023年**6月25日**(日)

12:30～14:30

**会場** ホテルニューオータニ佐賀

### 式次第

- ・開会の挨拶
- ・日本女医会の紹介
- ・佐賀県における女性医師支援活動の取り組み
- ・懇談会
- ・閉会のことば

### 編集後記

WBCでの優勝、それまでの過程に多くの日本国民が感動し、暫くはその話題で持ちきりでした。栗山監督の元、世界を目指し、チーム一丸となってプレーする姿に感動しました。特に、大谷選手が決勝戦に臨み、「今日だけは憧れを捨てましょう！」の言葉は試合に臨む選手達そして彼らに憧れる野球少年達の胸をも熱くしました。急に俄か野球ファンになった私ですが、日本のマスメディアでの熱い報道と本拠地アメリカでの温度差を感じ、アメリカでは野球よりもアメフトやバスケットが主流であることも認識致し、同時に海外での「日本」の立ち位置を再認識することの重要性も感じました。また、感激の中、突然の岸田首相のウクライナ訪問、医療におけるオンライン資格確認システム化その延長線上にあるデジタルトランスフォーメーション化等、私達にとっての最優先課題の認識も必要なのでは？と感じております。「北から南から」は新入会員の古堅あずさ先生からのご寄稿です。是非、ご一読下さい！ (樋渡)

## 寄附者一覧 (2022.9～2023.3月末現在) (敬称略)

以下のとおりお知らせいたします。  
ご協力ありがとうございました。

宮城 樋渡奈奈子

創立120周年記念寄附金につきましては秋に発刊予定の特集号に掲載いたします。

## 会員動静

(2022年12月30日～2023年3月31日現在・敬称略)

	氏名	支部	卒年
入会	中山文子	埼玉	平成4
	小松崎美穂	千葉	昭和60
	浅野幸子	岐阜	平成22
退会	13名		
物故	丹羽初子	佐賀	昭和53
	長谷川晃子	青森	昭和62
	磯部弥生	山梨	昭和24

## 日本女医会誌

復刊第248号 2023年5月1日発行

編集人 樋渡奈奈子 発行人 前田佳子

制作 あづま堂印刷

発行所 公益社団法人日本女医会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-3-19

ロワレル千駄ヶ谷202

TEL 03-6447-0820 FAX 03-6447-0821

<http://www.jmwa.or.jp>

e-mail : [office@jmwa.or.jp](mailto:office@jmwa.or.jp)

